

写真表現の可能性に挑戦する  
新人写真家の発掘・育成・支援を目的とするフォトコンテスト

## 第39回公募 優秀賞、佳作受賞作品展

「写真新世紀」は、写真表現の可能性に挑戦する新人写真家の発掘・育成・支援を目的として、キヤノンが1991年にスタートした文化支援プロジェクトです。

銀塩・デジタル写真を問わず、自由で独創的な写真表現を応援しており、国内外で活躍する優秀な写真家を多数輩出するなど新人写真家の登竜門として認知されています。これまでの応募者総数は25,701名(組)となりました。

昨年、「写真新世紀」は創設25周年を迎え、この機に撮影機器の進化に合わせて静止画・動画を含むデジタル作品の応募も開始しました。ジャンルを問わない新しい視点による作品、作家の創作活動を支援できるよう、応募シ

テムを整え、グローバルに募集を行い、この新しい試みに、今年は1,723名の方がチャレンジされました。海外から新たに審査員を3名お迎えし、7名の審査員がそれぞれ優秀賞7名、佳作14名を選出しました。「写真新世紀東京展2016」では、それら受賞作品をご紹介します。

会期中には、グランプリ選出公開審査会を開催し、審査員の合意により優秀賞受賞者の中から本年度のグランプリが選出されます。

また2015年度グランプリを受賞した迫 鉄平氏による新作個展を同時開催する他、開催初日の10月29日(土)には、優秀賞・佳作受賞者、迫氏によるアーティスト・トークも開催します。

そして、昨年初の試みとして開催したポートフォリオレビューを今年も本展の期間中に開催します。この催しは、来場者が持参した写真を審査員や学芸員に対面で見てもらえる貴重な会となっております。また、ロンドンのフォトグラフィーズギャラリーのアンナ・ダネマン氏による写真レクチャー、さわ ひらき氏による映像レクチャーも開催する予定です。

この機会に才能溢れる若手写真家たちの現代を見つめる斬新な眼差しと写真表現の可能性に触れていただければと思います。

### 2016年度 優秀賞受賞者 ※五十音順敬称略

**柴田 敏雄 選**  
河井真樹「Sampling time」  
これは10年前の夏至の日の光の記録であり、その後10年間の時の標本である。2006年の夏、黒い漆のパネルの上に写真の感光剤を塗りピンホールカメラに入れて撮影した。そして写った画像は10年の時を経てあふりだされてきた。漆は経年変化によって「透けて」いく。

**さわ ひらき 選**  
高島空太「2016」  
世界の存在に確信を見いだせない。自分自身を認識することもできず不安に包まれ曖昧さは増していく。しかしそれらから不意に解放される瞬間がある。極めて純度が高くクリアな世界が現れる。その一瞬、その断片を限りなく近い状態で蓄積させている。そのような思いのもと私は写真を撮っている。

**オサム・ジェームス・中川 選**  
金 サジ「物語」  
「故郷とは一体何なのか」。在日韓国人の私には分かりませんでした。そこで私は現存している民族の伝承から故郷探しをはじめました。すると、そこで知り得るはずのない、しかしずっと知っていたかのような「何か」を発見します。この「何か」は私の中で響がりだし、ひとつの物語が産まれました。

**エリン・オートゥール 選**  
松井祐生「hidden space, just like」  
たとえば恋に落ちたとき。ふと突然に、その人の顔が思い出せなくなるまで覚えてないだろうか。写真は記録だと考えてみる。私たちの記憶もある種の記録。私たちは無意識のうちに、その“記憶”を加工したりする。恋をしたときのデータをプリントアウトしてみたら、きっと美しい写真になるに違いない。

**清水 穰 選**  
金 五郎「私は毎日、顔を洗っています」  
日ごとに変化する世の中は矛盾が多く、いつからか正義は定義できないこと、私の考え方や判断はいつも正しくはないことに気付いた。昨日より今日の私はどれくらい変わっているのか。規則も決まりもなく素直に撮ってきた写真は、自分がここに存在している、考えているということを証明している。

**澤田 知子 選**  
松浦拓也「音響写真」  
私の作品制作のベースに「写真メディアを介す」という方法論がある。従来の写真の概念に捉われず、写真と音を組み合わせた作品に新たな表現の可能性があるのではないか。そこで着目した技法が「フォトグラム」と「クラドニ現象」である。この2つを組み合わせたものを「音響写真」として提示する。

**アンナ・ダネマン 選**  
権冨園子「フィフティーン ミニッツ オブ フェイム」  
わたしは17才の頃からカメラをよく持ち歩きはじめた。決まって写真機におさめるのは「とらわれの身」のようなものばかり。わたしは撮ることで解放を願っていたのかもしれない。だけれど、写真機はまた箱の中へ閉じ込めるだけ。一生、箱の中だけれど、わたしたちはときどき、輝きを感じる。

### 佳作

安齋 利洋「Monet's Mappings #004」(動画) / 伊藤 和臣「Intern」 / 大塚 広幸「Picture」 / 岡本 健太「URBAN DREAM」 / 数井 佐弥子「惑星のはなし」  
菅野 咲子「sns download。」 / 小林 萌草「HIKARE TOKYO」 / スナックその「S++ 3344」(動画) / 成田 貴亨「ROSE GARDEN」 / 野崎 悠「命のポートレート」  
藤澤 洗平「Simple task」 / 牧 ヒデアキ「スケールと幻想」 / 宮本 博史「self community 家族について (box archive)」  
Benjamin Breitkopf「Once you have no horse, then you do not know the way」(動画)

### 審査員

(左から)アンナ・ダネマン(ロンドンフォトグラフィーズギャラリー・キュレーター)  
エリン・オートゥール(サンフランシスコMOMAキュレーター)  
オサム・ジェームス・中川(写真家) / さわ ひらき(美術家)  
澤田 知子(アーティスト) / 柴田 敏雄(写真家) / 清水 穰(写真評論家)



# 10/29 Sat.

参加無料

申込不要

### アーティスト・トーク

優秀賞受賞者7名、佳作受賞者14名、2015年度グランプリ受賞迫氏が、自身の展示作品について、制作意図の解説を行ないます。

日時 2016年10月29日(土)  
第一部 14:00~15:00  
第二部 15:30~17:30

会場 東京都写真美術館 地下1階展示室

内容 第一部 2016年度佳作受賞者14名による作品紹介と制作意図の説明  
第二部 2016年度優秀賞受賞者7名と2015年度グランプリ受賞者による作品紹介、制作意図に関するプレゼンテーション



# 11/12 Sat.

参加無料

要事前申込

### ポートフォリオレビュー

参加者のお持ちこみいただいた作品をお一人15分程度、審査員、学芸員の方々が講評する対面式のポートフォリオレビューです。  
※参加ご希望の方は、ご自身の写真作品(A4サイズ程のポートフォリオもしくはプリント30~50点)をご持参ください。

日時 2016年11月12日(土) 14:00~17:00

会場 東京都写真美術館 1階スタジオ

定員 36名  
※申込方法は10月3日(月)、写真新世紀ホームページに掲載。こちらをご確認ください。canon.jp/scsa

レビューア アンナ・ダネマン氏、オサム・ジェームス・中川氏、澤田 知子氏、清水 穰氏(2016年度審査員) 石田 哲朗氏、三井 圭司氏(東京都写真美術館学芸員)



【お問合せ】キヤノン株式会社 写真新世紀事務局 〒146-8501 東京都大田区下丸子3-30-2 TEL 03-5482-3904 【詳細はこちら】canon.jp/scsa

# 11/11 Fri.

参加無料

要事前申込

### グランプリ選出公開審査会、表彰式

優秀賞受賞者7名が自身の作品についてプレゼンテーションを行ない、審査員7名の審議により、グランプリを選出します。

日時 2016年11月11日(金)  
審査会 15:00~17:00  
表彰式 17:40~18:00  
受賞祝賀会 18:00~19:00

会場 東京都写真美術館 1階ホール他

定員 150名

申込方法 以下を明記の上、写真新世紀公開審査会申込センター(cast@web.canon.co.jp)へメールをお送りください。  
件名:「グランプリ選出公開審査会への参加希望」  
記載事項:①参加人数、②住所、③氏名(申込は2名まで可・氏名は2名とも記載してください)

※個人情報の取扱いについては写真新世紀ホームページにてご確認ください。  
※グランプリ受賞者には、奨励金として100万円、副賞のキヤノン製品のほか、特典として次年度の写真新世紀における展覧開催の権利などが授与されます。



# 11/13 Sun.

参加無料

申込不要

### 写真レクチャー

「ヨーロッパ写真の現在、フォトグラフィーズギャラリーのビジョン」  
ロンドン・フォトグラフィーズギャラリーの役割、その視点を持って、キュレーター、アンナ・ダネマン氏にヨーロッパ写真の現在を作品スライドをご紹介いただきながらお話いただきます。

日時 2016年11月13日(日) 13:30~15:00

会場 東京都写真美術館 1階スタジオ

定員 50名

### 映像レクチャー

「映像表現の可能性、さわ ひらきの仕事」

静止画・動画の公募もスタートした写真新世紀。審査員を務める美術家 さわ ひらき氏にご自身の作品をご紹介いただきながら、新たな映像/表現、その可能性について考察していただきます。

日時 11月13日(日) 15:30~17:00

会場 東京都写真美術館 1階スタジオ

定員 50名

